

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	財務諸表論(Financial Accounting)		授業コード	C186501
担当教員名	岡部 勝成		科目ナンバリングコード	E20608
配当学年	2	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	4	
履修上の注意または履修条件	出席が2/3を下回ると期末試験受験は不可能となります。			
受講心得	1. 毎回必ず出席してください(安易に欠席すると講義が理解できなくなる恐れがあります)。 2. 教科書を必ず購入してください。			
教科書	桜井久勝『会計学入門』日本経済新聞出版社、2012年。 岡部勝成『キャッシュ・フロー会計情報と企業価値評価』税務経理協会、2010年。			
参考文献及び指定図書	適宜、指示します。			
関連科目	簿記入門、簿記原理、会社簿記、原価計算論A・B、管理会計論A・B、監査論A・B、経営分析			

授業の目的	本講義では、財務諸表論の初心者から中級者程度の知識を有する学生を大対象として、財務会計の制度を分かり易く解説して財務諸表が読めるようになることを目的とします。財務諸表は、企業を取り巻く利害関係者(ステークホルダー)に対して当該企業の財政状態および経営成績に関する真実な情報を提供しています。とりわけ、財務諸表は企業外部のさまざまな情報利用者に対して、信頼しうる有用な情報を提供することを使命としていますので、理論と実務の両側面からアプローチし学習していきます。
授業の概要	企業が作成を義務付けられている貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書などの財務三表を扱います。これらの財務諸表を作成するというよりも、これらを読みとることが重要であり、この視点から企業経営に関連する事例を取り上げて講義をします。とりわけ、会計基準はコンバージェンス・アドプションといった激変期にあります。そのなかで企業会計における財務諸表を理論と実践をとおして理解できるよう詳細に講義を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：会社の役割 会計の定義、管理会計と財務会計、企業会計への法規制について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第2週：会社の役割 会社法による会計(債権者保護、株主保護)、金融商品取引法による会計、税法による税務会計について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第3週：利益計算の仕組み 企業活動の描写、複式簿記の構造、(仕訳帳、元帳への転記)について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第4週：利益計算の仕組み 複式簿記の構造(決算と財務諸表の誘導)、利益計算と財務諸表(損益法と財産法、財務諸表の体系)について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第5週：キャッシュ・フロー計算書の領域と課題 キャッシュ・フロー計算書の意義、その領域、さらにそれらの課題について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第6週：キャッシュ・フロー計算書の制度化 キャッシュ・フロー計算書の制度化の背景や現状について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第7週：キャッシュ・フロー計算書の構造 キャッシュ・フロー計算書の制度化、その資金概念、さらにそれらの表示区分ならびに表示方法について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第8週：キャッシュ・フロー計算書の役割 キャッシュ・フロー計算書の役割、営業キャッシュ・フローと概算キャッシュ・フローの比較について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第9週：キャッシュ・フロー計算書の利益の質	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします

利益の質の現状とその定義、さらには財務分析による事例について説明します。	省向題を解いてもらい、解説をします
第10週：キャッシュ・フロー・マネジメントの有用性 キャッシュ・フロー・マネジメントの問題点、企業(事業)のライフサイクル、キャッシュ・フロー計算書による分析について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第11週：キャッシュ・フロー・マネジメントの有用性 企業活動におけるキャッシュ・フローの諸問題、キャッシュ・フロー分析について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第12週：キャッシュ・フロー計算書の利用 キャッシュ・フロー計算書に関する実態調査に基づいた分析について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第13週：利益計算のルール 会計基準の必要性和その必要性、企業会計原則の一般原則について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第14週：利益計算のルール 損益計算書原則(現金主義会計と発生主義会計、発生主義会計と基本原則)、貸借対照表原則(資産の原価と時価、現行の資産評価基準)について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第15週：売上高と売上債権 企業活動と財務諸表、営業循環における収益の認識(販売基準、生産基準、回収基準)について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第16週：売上高と売上債権 利益計算への影響の比較、収益認識基準の適用(通常の販売、工事契約、割賦販売)、売上債権について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第17週：棚卸資産と売上原価 棚卸資産の範囲、棚卸資産の取得原価(購入の場合、自社生産の場合)について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第18週：棚卸資産と売上原価 棚卸資産の原価配分(継続記録法と棚卸計算法)、棚卸資産の期末評価(棚卸減耗費、棚卸評価損)について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第19週：固定資産と減価償却 固定資産の範囲と区分(有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産)、固定資産の取得について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第20週：固定資産と減価償却 固定資産の原価配分(減価償却の目的と効果、各種の減価償却方法、固定資産の減損、除却と売却による損益)、繰延資産(意義、会社法上の繰延資産)について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第21週：金融活動の資産と損益 余剰資金の運用、現金および預金、有価証券の範囲と区分について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第22週：金融活動と資産と損益 有価証券の取得原価と期末評価(取得原価、期末評価)、資金運用の損益について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第23週：営業上の負債と他人資本 負債の範囲と区分、営業上の負債、他人資本の調達に伴う負債(借入金、社債による資金調達、普通社債の発行と調達)について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第24週：営業上の負債と他人資本 他人資本の調達に伴う負債(転換社債と新株予約権付社債)、引当金(引当金の本質と要件、引当金の種類と区分表示)、偶発債務について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第25週：資本の充実と剰余金の分配 資本の意味と区分、資本金と資本剰余金(会社の設立、増資、その他資本剰余金)について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第26週：資本の充実と剰余金の分配 留保利益とその分配(剰余金の配当と処分、会社法の配当制限、損失の処理)について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第27週：財務諸表の作成と報告	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします

法定された会計報告書(会社法の計算書類、金融商品取引法の財務諸表)、損益計算書(収益・費用の源泉別計算、利益の段階的計算)について説明します。		省向題を解いてもらい、解説をします
第28週：財務諸表の作成と報告 貸借対照表(流動項目と固定項目、貸借対照表の区分表示)、株主資本等変動計算書(株主資本の変動、包括利益の表示)、会計方針の注記について説明します。		テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第29週：連結財務諸表 企業集団の財務報告、連結貸借対照表、連結損益計算書、持分法による投資損益、株主資本とキャッシュ・フロー計算書について説明します。		テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第30週：総括 これまでの講義範囲をテキストを使用して復習するとともに、配布プリントにより練習問題を解き、回答解説しより理解を深めます。		テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします
第31週：期末試験 30回までの講義内容を試験範囲とします。試験時間は60分、テキスト、筆記用具は持ち込み可とします。ただし、ノート、配布プリントは持ち込み不可です。		配布資料、試験問題、解答例
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考	会社簿記と関連していますので、同時に履修することを勧めます。原則、工学部の学生は簿記入門・ビジネス会計の履修取得(簿記3級合格者でも可)でかつ評価が「S」または「A」の学生に限りますが、やる気のある学生は歓迎します。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	財務諸表の内容や個別の分析を行い報告できる。
【知識・理解】	財務会計制度の内容が理解できる。 財務諸表の内容を理解し、それを読むことができる。
【技能・表現・コミュニケーション】	財務諸表の内容やステークホルダーとの関係が概説できる。
【思考・判断・創造】	財務諸表に関して論理的思考ができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	70点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点		
(「人間力」について)				
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	受講生が多いため定期試験のウエイトは高くなりますが、練習問題や課題の優劣で加点することもあります。
発表・その他 (無形成果)	授業のなかで適宜質問や練習問題を解き、回答解説を行います。優れた解答をした学生は、記録して加点することがあります。